

会 報 わかくさの風

No. 1

社 会 福 祉 法 人 戸 田 わ か く さ 会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1 5 2 2 -1 わかくさ 内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

解体予定の埼京線高架下の
旧わかくさ生活実習所の建物。
平成2年からお世話になりました。



戸田わかくさ会は今年の一月一日をもって法人化十周年を迎えることとなります。ひとえに地域の皆様のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

社会福祉法人戸田わかくさ会は、今年で法人化 10周年 を迎えます。
地域の皆様からのご支援に感謝をお伝えする取り組みを計画します。



第1回戸田わかくさ会まつり開会宣言（新築のわかくさにて 昨年9月）

当会は重度障害者の働く場づくりに奮闘した数人の障害者を持つ家族の活動が始まりでした。その後、戸田市のご支援により戸田市新曽の埼京線の高架下

に障害者小規模作業所「わかくさ生活実習所」となり、平成十六年十二月に社会福祉法人戸田わかくさ会として法人格を取得することができました。昨年現在地に「わかくさ」を新築、法人本部も移転し、現在七事業、利用者数の二百二十人を超えるまでになりました。

本年12月の法人化十周年にあたり、地域の皆様に感謝し、今後の法人の諸活動及び地域福祉の向上に寄与する活動などの記念行事を予定しております。

詳細は現在検討中ですが、記念式典や基調講演、利用者とのコンサート、絵画展や福祉実践交流会など、これまで支えていただいた皆様と共に楽しく意義あるものにと考えております。秋には正式なご案内をお届けできるよう、準備を進めてまいります。

新年度も、ご期待下さい。

RESTART

「ホームレス」から新たな暮らしを築く

障害者生活支援センター わかば

わかばでは、「その人らしい生き生きとした暮らし」ができるように、心配事や困り事の相談や福祉サービス利用の為のお手伝い等を行っています。日々様々な相談がありますが、その中から「ホームレス」だったAさんのお話を紹介します。(尚、掲載についてはAさんの了承を得ています。)

◆「もう限界」

始まりは、埼玉県社会福祉士会でホームレス支援巡回事業をしている相談員からでした。ホームレスの生活は、寒さと不安でゆっくり眠る事もできず限界を感じているとの事でした。

◆不安と迷い

まずは住まいの確保ですが、Aさんはアパート住まいが希望でした。選択肢の一つとしてグループホーム(以下「ホーム」という)に空きがあったことからホームの話もしましたが、「施設には行きたくない」と気乗りし

ない様子でした。かつての施設での苦い思い出から人間関係が不安で集団生活に抵抗があったのです。しかし見学してみると、Aさんの思い描いていた施設とはイメージが随分違いました。少人数で全て個室、家庭に近い暮らしであると感じて少し気持ちが動きました。が、決断には至りませんでした。

◆決心

何度か訪問してAさんとの面談を重ねました。障害福祉課やホームの職員にも会いに行きました。不安を取り除くように気持ちをしつくり聴きながら、繰り返し説明をしていくうちに「まずはホームから」と徐々に気持ちが動いて行きました。そして、Aさんの気持ちが固まり、決断を待って、必要な手続きを開始することになりました。

◆最初は生活保護の申請

以前に何らかの理由で受理されなかった経験があり、不安が

募りましたが、わかばと障害福祉課職員と一緒に窓口へ出向き、Aさんの今後の生活の為に経済的な支援が必要である事やAさん自らホームで生活を立て直す決心を伝えました。数回の面接を経て生活保護申請が受理されたことで経済的支援が整い、障害福祉サービスの申請や健康診断、生活用品の購入等の準備ができるようになりました。

◆新たなスタート、そして。

今、Aさんはホームで新しい生活を始めています。ようやく安心して眠れる環境が整いました。でも本当の願いは、アパートでの一人暮らしです。それに向けて健康管理や自分



この会報は、年4回発行し、ご支援・ご協力いただいている皆様へ、各事業所のとりくみをお伝えしていきます。

で掃除や洗濯など生活に必要な事を学んでいます。作業所への通所を始めたたり、数十年前ぶりにバスや電車に乗ったりと、ドキドキしながら様々な「初体験」に挑戦し、目標へ歩み始めています。また、Aさんは、色々な人に助けられ感謝していると話してくれました。でも、まだまだ不安だらけの毎日です。ホーム入居者に気を遣ったり、関わりに悩んだり、作業所で勤まるか自信が無かったり・・・考えすぎて眠れない夜もあるそうです。(確かに、時々深刻な顔でわかばに来ることがあります。)

それでも、『考えたってしょうがないよな。やってみなきゃわからないし、やるしかないからな。』と前向きに考えられるようになってきています。初めて会

った日、凍えそうに寒い雨の中で困惑した表情のAさんでしたが、春めいた日差しの中で前向き笑顔で話してくれました。

◆ホームの戸惑いから

実は、受け入れるホーム側でも戸惑いがありました。単に「ホームレス」というだけで、何となく不安を感じていたのです。しかし、Aさんと一緒に生活をする中でその不安は解消されつつあります。不遇な生活環境であるが故に社会経験の機会が乏しく、わからない事があります。が、「人」としてなんら変わりはないという当たり前のことに気付いたのです。

◆寄り添う人の輪を広げて

今ではAさんの周りには、わかば以外にホームや作業所の職員、市の生活支援課と障害福祉課などこれからの生活を応援し支援してくれる人が増えていきました。今後もAさんの希望する暮らしに合わせて、支援のネットワークを拡げ包括的に支えていきたいと思っています。Aさんが本当に安心して笑顔で暮らせるよう、これからも一緒に考えていきます。(わかば 猪野)



一歩前に、就労への思いを進めましょう！

「川口市自立支援協議会シンポジウム」の開催から

障害者就業・生活支援センター みなみ

本年三月八日に3回目となる川口市自立支援協議会就労移行支援事業所プロジェクトチームによる「川口就労支援シンポジウム」を開催いたしました。みなみの職員も実行委員として運営のお手伝いをしました。

当日は150名以上の参加者

があり、第一生命チャレンジド株式会社、常務取締役小田垣様と当事者の講演及び川口市内の就労移行支援事業所9カ所の当事者による事業所紹介を行いました。

会場の当事者の方からの「自分のできる仕事を知りたい」「各事業所の特徴が分かった」という発言、ご家族からは「家族が無理だと決めつけずに本人の思いを支えることが大切だと感じた」等のたくさんのご意見が寄せられました。

日々の相談の中で重要なのは、相談者のモチベーションを高めることです。当然ですが、働きたくない方を働かせるのはとても困難です。エンパワメントの視点で相談者の方が働いてみたいと思えるような動機づけとなる支援はとても難しいのです。今回参加して頂いた当事者・家族・支援者の一人でも多くが、

障害のある方の就労に向けて一歩前に思いが進めばと思います。「軽度だから就職できるのでは」との意見もありましたが、障害が重い方でも就労されている方はいます。当事者の『働きたい』『働いてみたい』という思いをストレングスとして捉え、その方の可能性を信じて、周りの方が支えていことが大切だと思います。(酒井)

障害者の就労・雇用に関するご相談は

戸田市障害者就労支援センター(主に戸田市関係)、
障害者就業・生活支援センターみなみ

(担当区域: 川口・蕨・戸田)に、ご相談ください。

- ・就労を希望する障害のある方や関係者の皆さん
- ・既に障害者雇用をされている、または今後検討したいとお考えの企業の担当者様

ご連絡をお待ちしております。

Tel 048-471-9333 (戸田市障害者就労支援センター)

Tel 048-432-8197 (就業・生活支援センターみなみ)

勤務の後にほっと一息

「サロン活動を通じて」 戸田市就労支援センター

就労支援センターの取り組みの一つに「サロン活動」があります。これはレクレーション等のイベントを通じて当事者が集まり、仕事を離れてほっと一息いれる。そのような場所を提供しています。

昨年 8 月、ゆうゆうの「花火を見る会」連動企画として「サロン(座談会)」を行いました。参加者は 13 名。自己紹介から始め、ジェスチャーゲームで場が盛り上がったところで本題に入ります。

今回のテーマは「休みの日の過ごし方」です。相撲観戦、旅行、買物等の外出や友人との交流、一人でのんびりするなど過ごし方は様々。「自分なりのストレス解消法を見つけることが大切」との話も出しました。

後半に参加者の一人から「テーマと関係はないが、様々な悩みがあり考え込んでしまう。どう解決したらよいかわからない。

みんなの意見が聞きたい。」と涙ぐみながらの訴えがありました。

非常に難しいテーマでどうなるだろうと見守っていると、参加者から「自分にも似たようなことがあった」「こうしたらどうだろう」などいろいろなアイデアが飛び出してきました。当人の気持ちを考え親身になって考え、真剣に答えている姿は大変感動的でした。この場で解決に導けたとは言えませんが、質問した当人は一生懸命答えてくれる仲間がいることを実感できる仲間がいてよかった」と笑顔で帰っていききました。

イベントを用意する側としては、毎回何をやろうと悩むところではありますがこのような自発的なきっかけから得られるものは貴重で大きな収穫だったと思います。今後も利用者主体でこのようなサロン活動を継続的に開催していきたいと考えています。

(蔭山)

就職決まったよ！

4 人ががんばってます！！

福祉作業所かがやき

(就労継続支援 B 型・就労移行)

昨年度の「かがやき十大ニュース」の筆頭にあげるとしたら、就職者が 4 人出たことです。これは驚きであり、また、本当にうれしいことです。

本人の頑張りや勿論ですが、就労支援センターの的確なアドバイスとサポートにより就労に結びつきました。今回は就労移行から 2 名、就労継続 B 型より 2 名ということで、B 型からも就職ができることを証明しました。

特に就労移行に在籍していた Y さんは、始めは、企業実習の経験がないこともあり、不安で、なかなか実習の話を受け入れられない様子でした。が、委託訓練に参加して自信をつけることが出来ました。就職に向けた実習についても、チャレンジしたことと本人の中で「出来た」という自信となり、勤務時間を若干短縮して、就労へと結びつくことになりました。

職員の定期巡回では、会社に溶け込んで元気に頑張っている様子が窺えました。そして、3 月から勤務時間が更に一時間延長になり前向きに頑張っています。その姿はとても頼もしいです。Y さんだけでなく、就職をされた方々もそれぞれの会社で頑張ってくださいね。

みんなも応援していますよ。

(宮國)



がんばってくださいね！ Yさん

ケアホーム下笹目(※下記参照)が開所してこの春で5年目となります。入居者の方たちもホームでの生活に慣れ、自分のことは自分でやろうとする気持ちや、自分で考えて自分で行動することが多くなってきました。ここでは、Aさんの思いをご紹介します。

自分で決めて自分でつくる暮らし グリーングラス(グループホーム)※

◆一度、断念したAさん

自宅から事業所まで三輪の自転車です通所していたAさん。Aさん自身はホーム入居を希望していました。新大宮バイパスを越えた場所のホームから事業所に通うのは困難との家族の意向もあり、本人も一度は入居を断念、悔しい思いをしました。

◆再挑戦と通勤の工夫

Aさんの「家族と離れての暮らし」への強い願いは、約半年後の入居者再募集の挑戦、そして入居決定につながりました。

周囲の不安であった自転車通勤も、最初の数日はバイパスを渡る時に世話人が見守りの支援をしたもの。ご家族の心配をよそに、難なく自転車でバイパスを渡るようになりました。

◆今では、制度の活用も

当初、雨の日はカッパを着て自転車です通所していましたが、ある時から福祉タクシー券を使ってタクシーを利用するようになりました。電話でタクシー手配をすること、運転手に行き先を伝えることなどうまく話せるか不安がありました。行き先を伝えるカードを作り、電話の

回数を重ねるうちに自信がつき、今では全て一人でできるようになりました。今では、その日の天気を見ながらタクシーにするか自転車で行くか自分で判断して決めています。

◆「私らしい暮らし」の実現を

ホームの事業計画のキャッチフレーズにもあるように、『自分で決めて自分でつくる暮らし』を入居者の方たちが少しずつ実現させていくことを私たち世話人はこれからも変わりなく、支援していきます。(礪波)



2月にホーム交流会を行いました。

※ホーム名称変更のお知らせ

「障害者総合支援法」の改定に伴い、それまでの「ケアホーム」と「グループホーム」は本年4月1日より「グループホーム」に一元化されます。

戸田わかくさ会でも3つのホームは、法律上の事業名称は全てグループホームに変更します。

また、今まで3つのホームを個別に運営・経営してきましたが、この機会に3つを統合して一つの事業所とすることにします。名称は「グリーングラス」です。そのため、3つの建物は各々、

- ・グリーングラス下笹目
- ・グリーングラス上戸田
- ・グリーングラス第2上戸田

という呼び名になります。

また、夜間の宿直体制も現行通りですが、4月から宿直に関する報酬単価の大幅な引き下げが決定され、収入減となるため、当面法人で補てんし、関係団体と共に国に改善を求めていきたいと考えています。

ホームのくらしや職員体制などは、概ね変わりありませんので、ご安心ください。

仕事に目標を！ みんなで協力！

福祉作業所ゆうゆう（就労継続支援 B 型）

ゆうゆうでは、月曜日から木曜日に 6 人が交代で蕨戸田衛生センターに隣接するリサイクルフラワーセンター内で花の育成作業に従事しています。日々、種植えや移植、土作り、時にはピンセットでの移植作業など細かく器用さが必要な難しい仕事や効率を求められる仕事などがあり、利用者一人ひとりの技量の向上と協体制度の確立が課題となっていました。

その解決に向けて、個人の作業の習熟だけでなく、「チーム」全体の技量の向上を図ることをめざして、昨年度からフラワーセンターのメンバーを固定し、話し合いを重視することにした。

初めは、道具の準備ひとつとっても職員が細かく指示をし、見守る必要がありました。話し合いの中から一人ひとりの「役割」を確認や仕事の分担が決まっていきました。



みんなで作業の振り返りをしています

するとメンバーの動きに変化がみられるようになってきました。Kさんは、その日の作業に必要な道具を指折りしながら、正確に準備できるようにになりました。Nさんは自分の役割として毎日ジャグの準備を行ってくれます。

作業の場面でも流れ作業や分業の中で、隣の人の作業の様子を見ながら「お願いね」と声を

かける G さんの姿や、競い合うように以前よりたくさんの仕事をしようになった K さんの姿から、作業の効率や仕事量をアップさせることができたことが伺えます。

メンバーからは「チームのみんなと仲良くなれてよかった。みんなと一緒に仕事を頑張りたい。」と話をしてくれています。

このようなことから、チームで仕事をする中で、利用者同士が意識することにつながり、お互いの成長につながったのだと思います。これからもお互い協力し合って、みんなで成長していきたいと思っています。

（石川）

ゆうゆうどら焼き、和菓子等 価格改定のお知らせ

日頃より「ゆうゆうどら焼き」をご愛顧いただき、心より御礼申し上げます。

平成 20 年から販売価格を維持してまいりましたが小麦をはじめとする原材料費の高騰と消費税の引き上げのため、本年 4 月 1 日より販売価格を変更せざるを得なくなりました。

誠に心苦しいのですが、何卒、ご了承賜りたく、お願い申し上げます。

平成 26 年 4 月 1 日

福祉作業所ゆうゆう

所長 本川和代
和菓子班一同

（改定の一例）

100 円商品（桜餅など）	→	改定後	110 円＋税
120 円商品（どら焼き）	→	〃	130 円＋税
130 円商品（ごまどら焼き等）	→	〃	140 円＋税

その他商品は別途ご案内いたします。

安心できる活動場所をめざして

利用者から学ぶ大切さ わかくさ

(生活介護・就労継続支援B型)

わかくさに通うFさんは、ヘルパーさんの家事援助などの制度も活用しながらアパートで単身生活を送っていましたが、昨年6月に退去しなければならなくなりました。次のアパート探しも難航し、退去期日も迫る中で、次の「生活の場」として法人内のケアホーム（4月よりグループホーム、以下「ホーム」という）の入居を選択することになりました。

実は、ホームとしての「心配」がありました。わかくさでのFさんは障害に起因して言語によるコミュニケーションが充分とはいえず、時には大声を出して落ち着かず、周囲がどうしてよいかわからない状況になることもあります。他の利用者と一緒に生活できる力があるかどうか、環境を整備することができかどうかということも話題となりました。

しかし、Fさんにとって、日常生活の支援が継続的に可能となるホームでの暮らしが望ましいのではないかと考え、「宿泊体験」も重ね、本人の納得の上で入居にいたしました。

入居後、わかくさとしてはホームからの情報も得ながら、日中活動の場面でもホーム―わかくさの連続した支援ができるように心がけてきました。

たとえば、わかくさでの作業中に他の利用者に「大声で怒鳴って」いた際、職員が注意をすると、更に大きな声をあげ怒り始めたことがありました。そこで、「利用者を怒鳴る」行動をただ注意するのではなく、「なぜFさんは、他の利用者を怒鳴ったのか」という理由を考えるようにしました。

落ち着いた頃合いを見計らって、本人と話をすると「仕事

をさぼっていたから、注意した」との答えが返ってきました。一般就労の経験のあるFさんは、皆にさぼらずに仕事に取り組んでもらいたくて「注意」をしたのでした。しかし、Fさんの障害上、「乱暴にきこえる声掛け」が職員には「怒鳴っている」様に見えていたのでした。

職員の一方的な思い込みではなく、事実や状況を充分に把握すること、その要因を冷静に分析し、職員の関わり方を修正することを通じて、不安な行動も徐々に軽減されつつあります。また、この考え方をわかくさ内部に止めず、ホーム職員とも共有することで、場所が変わってもFさんの不安を理解することができるようになると考えています。

ホームの入居から9ヶ月が過ぎようとしています。時々、Fさんが不安定になることもありますが、一つひとつじっくり考えて対応するように心がけてきたことで、本人の表情や行動には少しずつ穏やかな場面が増

え、安心できる環境になりつつあるように感じます。

今後も障害者の暮らしに関わる職員として「本人から学ぶ姿勢」を大切にし、「生活を支える・寄り添う」支援を積み重ね、障害の重い人も普通に地域で生活できるように取り組んでいきたいと思っています。

(和田)

戸田わかくさ会で一緒に仕事してみませんか？

障害者の「働くこと・暮らすこと」の充実と一緒に進める仕事です。詳細は法人ホームページ内の「職員募集」をご覧ください。

来年度以降の新規採用や職場体験実習なども、担当までお気軽にお問い合わせください。

担当：法人本部（草柳・小野寺）Tel 048-432-8198

埼玉県庁(障害者福祉推進課 障害者芸術・文化担当)や埼玉県障害者アート企画展のスタッフの間でも「つぶつぶくん」「魚卵職人」などの愛称で親しまれている齊藤勇真(さいとうゆうま)さん。今回は、身長180センチメートル超(←たぶん)の彼がつくりだす、ミリメートル単位の繊細で細やかな作品を紹介します!!



職人の指先は高速!



衝撃作! 通称「魚卵」。



「無題」(原材料:ティッシュ)



《作者経歴》戸田市立福祉作業所ゆうゆう所。平成24年度埼玉県障害者アートフェスティバル『障害者アート企画展』入選(2012年12月) / NPO法人エイブル・アート・ジャパン主催『存在と生活のアート vol.8』参加(2013年8-9月) / 平成25年度埼玉県障害者アートフェスティバル『障害者アート企画展』入選(2014年1月) / 社会福祉法人みぬま福祉会 川口太陽の家 工房集主催『コラボレーション展』参加(2014年2月)

人事異動のお知らせ

(4月1日付)

統括施設長 竹嶋 紘
(解く) わかくさ所長・障害者生活支援センターわかば 所長

わかくさ所長兼障害者生活支援センターわかば所長 菊地 久雄

(法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、戸田市障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ

(ホームページはこちら)

<http://www.wakakusa-kai.com/>

発行: 社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 戸田市新曽 1522-1

Tel.048-432-8198 fax048-432-8298

後援会からのお知らせ

戸田わかくさ会後援会では、戸田わかくさ会の応援・支援をはじめ、市内の障害者福祉・地域福祉の向上のための活動を進めています。

昨年度は、戸田わかくさ会まつりのお手伝い、フリーマーケットや映画会など地域の皆さんとともに活動を進めてまいりました。また、物資販売などを通じて得られた資金は、法人の活動や新たな施設づくりのために寄付してきました。

どなたでも後援会の会員になっていただけます。年会費は下記の通りとなっております。

趣旨をご理解いただき、ぜひともご加入していただきますよう、お願い申し上げます。

後援会会費

個人会員 年間一口 2000円

団体会員 年間一口 5000円

問い合わせ先 戸田わかくさ会後援会

戸田市新曽 1522-1 わかくさ内(担当:茂木)

Tel.048-432-8198 Fax 432-8298